

図 18.2 皮膚老化 (skin aging) の病理組織像
表皮が萎縮し真皮上層の弾性線維，膠原線維が断裂し，塊状を呈する (矢印)。

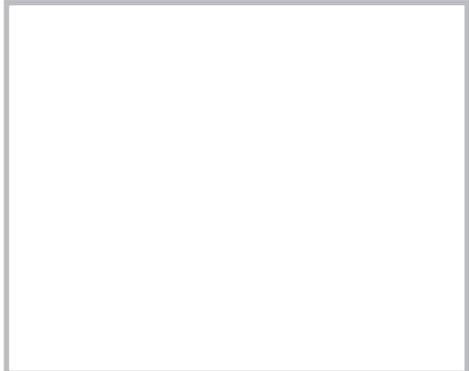


図 18.3 white fibrous papulosis of the neck
2～4 mm 大の白色小丘疹が頸部に多発。

治療・予後

現時点で有効な治療法はない。時間の経過とともに目立たなくなるが，完全に消退することはない。

2. 皮膚老化 skin aging

類義語：老人性皮膚萎縮症 (senile skin atrophy)，日光性弾力線維症 (solar elastosis)，皮膚粗鬆症 (dermatoporosis)

Essence

- 加齢とともに生じる皮膚変化の総称。長期の光線曝露も関与する。
- 基本は皮膚全体の機能低下と萎縮である。
- 後頸部に生じ，菱形に深い溝が形成されたものを項部菱形皮膚という。

症状

加齢とともに生じる皮膚変化の総称。皮膚は全体的に菲薄化して緊張を失い，とくに顔面や頸部，関節部では，皮野に沿った皺を形成するようになる。ドライスキンから秕糠様落屑を生じ，皮脂欠乏性湿疹，皮膚瘙癢症をきたしうる。萎縮によって独特の淡黄色調の光沢を示したり，あるいは褐色調となる。紫外線を受けやすい露光部ではとくに顕著となる〔光老化 (photoaging)，13章 p.229 も参照〕。戸外労働者では変化が強く，とくに項部では深い皮溝が形成され，菱形の皮野形成が認められる〔項部菱形皮膚 (cutis rhomboidalis nuchae)〕。また，血管の脆弱性により紫斑を生じやすくなる (老人性紫斑，11章 p.184 参照)。

病理所見

紫外線の影響によって表皮が菲薄化し，表皮突起が消失する。真皮も薄くなり，膠原線維の減少が著しい (図 18.2)。エラスチカ・ワンギンソン染色では弾性線維は断裂し，小塊状変化をきたす〔日光性弾力線維症 (solar elastosis)〕。汗腺や脂腺の数，大きさは減少し，皮下脂肪組織も減少する。

3. white fibrous papulosis of the neck (Shimizu)

症状

高齢者の頸部に，直径 2～4 mm 程度，円形～楕円形，白色

～淡黄色の小丘疹が多発する(図18.3)。皮疹は境界明瞭であり、毛包と関係なく出現する。融合傾向は示さない。病理所見では真皮上層での膠原線維の肥厚が認められる(図18.4)。病因は加齢による真皮の変性である。

疫学

日本人、アジア人のみならず、欧米人にもよくみられる。

4. 硬化性苔癬 lichen sclerosus ; LS

同義語：硬化性萎縮性苔癬 (lichen sclerosus et atrophicus ; LSA)

症状

直径2～3mmの白色扁平丘疹が出現し、集簇して硬い白色局面を形成する。のちに白色局面は萎縮し、羊皮状となる(図18.5)。面皰様の角栓を伴うことが特徴的である。ときに瘙痒や疼痛を伴う。中年以降ないし10歳以下の外陰部に生じる場合が8割を占め、1:5～15で女性に多い。女性では大陰唇や陰核、肛門部にも好発し、しばしば数字の「8」型の分布をみる。男性では陰茎に生じやすく、硬化により尿道口の狭窄をきたすことがある。背部など体幹や前腕などに生じ、水疱を形成することもある。円形脱毛症や尋常性白斑を合併することがある。

病因

不明であるが、遺伝的要因や性ホルモン低下、免疫学的機序の関与の可能性がある。細胞外マトリックス(extracellular matrix 1 ; ECM1)に対する自己抗体が患者血清中に認められるとの報告がある。

病理所見

表皮萎縮と液状変性がみられ、真皮上層では膠原線維が均質化、浮腫状となり細胞成分が減少する。進行すると真皮に帯状リンパ球浸潤をきたす。過角化および角栓形成が認められる(図18.6)。

治療・予後

小児ではステロイド外用に反応し、自然消失することも多い。成人では慢性に経過し難治であることが多い。外陰部では数%の症例で有棘細胞癌を病変部に生じるため、注意深い観察が必要である。

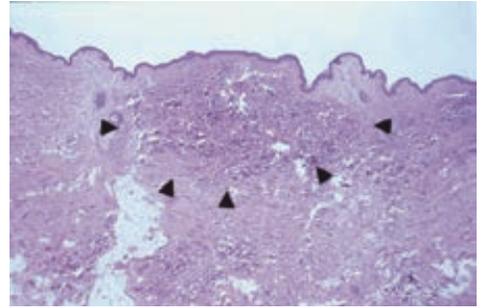


図18.4 white fibrous papulosis of the neckの病理組織像
真皮上層の線維化(矢尻で囲んだ部位)

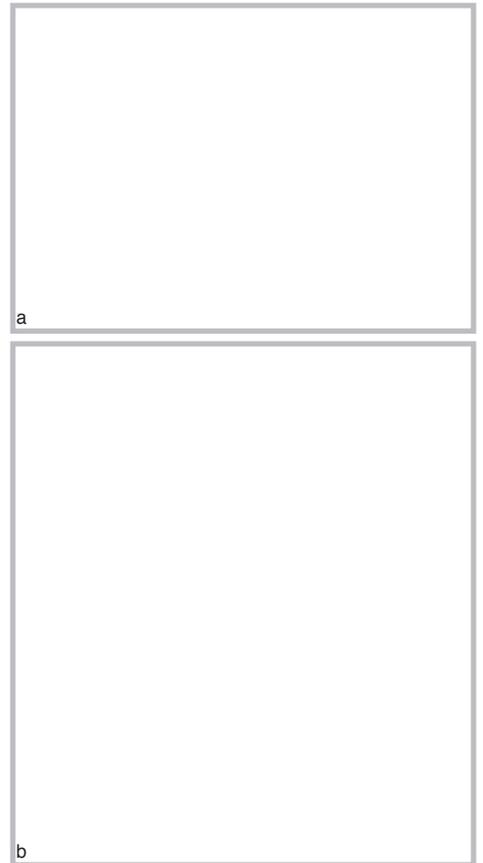


図18.5 硬化性苔癬(lichen sclerosus)
a: 前胸部の白色局面。b: 高齢女性大陰唇部に生じた病変(白色病変)。一部有棘細胞癌へ移行している(紅色隆起性病変)。

外陰部の硬化性苔癬

MEMO